

2003 年度 W G 活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	リモートセンシング WG	主査名：飯野秋成
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会(都市環境・都市設備小委員会)	主査名：成田健一
設置期間	2003 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設置目的 各年度活動計画	リモートセンシング技術の建築学分野への応用可能性に関する委員各自の研究 成果の発信、およびこれらの研究に関連する各種ツールなどの技術情報の発信に 関する検討を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	飯野秋成(新潟工大), 塚本健二(新潟工大), 小松義典(清水建設), 斉藤郁雄(八代高 専), 高木直樹(信州大), 竹林英樹(神戸大), 梅干野晁(東工大), 松岡昌志(防災科学 技術研究所), 宮崎ひろ志(姫路工大), 森山正和(神戸大), 依田浩敏(近畿大九州工学 部), 李海峰(早稲田大), 渡辺浩文(東北工大)	
2003 年度予算	1 2 0 0 0 0 円	

項目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	ML による不定期開催のみであるが、委員全員の活発な参加があった。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 1) これまで WG で刊行してきた「リモートセンシング研究論文選集」の内容の 電子データベース化、およびその公開方法に関する検討を進めた。論文選集に掲 載した文献の電子リストを完成させ、委員の文献検索のために利用されている。 2) 処理ツールの公開については、公開できる部分とできない部分の線引きが年 度内では困難であったため、WG 成果として公表するには至らなかった。ただし、 委員の間でツールやデータの共有が進んでおり、委員各自の研究レベルのアップ に少なからず寄与していると考えます。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 当初予定していた WG 成果の Web による情報発信には至っていないため、必ず しも達成度は高いとはいえない。しかし、WG 委員をはじめとする RS 関連の研 究者間の議論は今後進むものと考えられる。その基本的なコンセンサスが得られ た点は大きな成果である。
その他評価すべき 事項	特になし